

は し が き

当研究所は、平成13年1月に国立教育研究所が大幅に改組・再編されることにより、国立教育政策研究所となった。

本研究所では、教育政策立案のための総合的な調査研究、教育関係者等への教育研究情報の提供・発信、教育分野における国際的な共同研究・協力及び、都道府県・市町村等の教育研究所・センターとの共同研究等を柱とする事業を展開しているところである。

様々な教育政策が進められる中で、行政施策の諸課題に迅速かつ的確に対応できるよう努めてまいりたいと考えている。

その情報発信の一貫としてこの「紀要」をお届けするものである。

このたびの第132集は、「メディア・リテラシーの総合的研究—生涯学習の視点から—」を特集とし、自由投稿を3編含んでいる。

特集で扱われている研究は、平成10年度～13年度の国立教育政策研究所の調査研究等特別推進経費によって行われたもので、生涯にわたって必要とされるメディア・リテラシーを研究対象としている。

その目的は、メディア・リテラシーの概念についての理論的研究を端緒とし、学校教育や社会教育において、メディア・リテラシーに関してどのような取り組みや指導がなされているか、メディア・リテラシーが児童・生徒や成人にどの程度習得されているかなどについての実証的分析により、今後の学校教育、生涯学習社会におけるメディア・リテラシーの研究の方向性を探ろうとするものである。

研究期間に、既に7冊の研究成果報告書を公表してきているが、この特集はそれらの成果報告書に基づいて、書き改めたものである。

今後のメディア・リテラシー研究の一助となれば幸いである。

平成15年3月

国立教育政策研究所長
遠藤 昭雄